

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 6 日（日）13:00~14:00

国土交通省ハッ場ダム工事事務所川原湯総合相談センター

発言者：意見発表者 6

私は、●●●の住民です。実家が●●●で、実際は両親、親戚は打越の代替地で新居を建てて暮らしています。私はこの駅から中学校や高校に行き、ちょっと上がったところなんですけど、小さい頃は沢川で鱒を釣ったり、それからお祭りがあったり、湯かけ祭りがあったり、山もまだ沢山あったので子供のころは山へ行って秘密基地を作ったりとか、あと缶蹴りしたりとか。私たちのころはまだ昭和 40 年代だったので、すごくまだ、ダムが賛成反対っていうのを小さい頃から両親とともに聞いて育ち、近所のおじさんおばさんたちがダム反対賛成で一喜一憂して、川原湯の人たちが反対になったり賛成になったりという中で、それを全部見聞きして育ってきました。実際ですね、私は今、大津っていう隣町に住んでいるんですけど、私も 40 代の半ばになり子供も 3 人おりますが、ここずっと何十年とダムの問題を、やっぱりあの、実際私は水没地域に住んでないんですけど、隣町にいますから、実家のこととか親戚のことがが気になりますので、果たしてこのダムはどうなるのかなっていうような目で見えてきたんですけど。実際ですね、何年か前に、京都大学の名誉教授の今本先生がテレビ朝日の番組にお出になりまして、実際横壁の現地に入りました。それでここの地質が果たしてダムに向いているか、それでこの地形が、河川工学的な見解からして、このダムを造っても大丈夫か、それとも造らない方がいいのかっていう、専門家の目で先生がご覧になって、やっぱり私たちは、天明 3 年の浅間大噴火ってことが、ちっちゃいときから頭に入っているんで、火山灰とか地質がどっかに引っかかかっていまして、やはり案の定先生が手に取った土がさらさら、こんなので、地すべり状態のところにはダムを造ったら、はっきり言って、この地区には日本で一番危険なダムが出来るといって先生が宣言されたのを、私は何気なくテレビのスイッチを入れたときに、たまたまそれをやったもんですから、それをずっとやっぱり、その先生が言われた言葉がずっと脳裏に残ってましたので、「ええ」と思って、ダムダムって言うんですけど、こんなところにダムを造って大丈夫なんかいってというのが、地元の人に言わせると「大丈夫なん？」って感じなんですよ。やっぱり私も小さい会社もして商売をしていますし、子供も 3 人いますから、子供達がここで住んだり、暮らすってことになる、たとえば「造れ造れ」ってダムを造りました。地すべり激しい危険なダムの隣に、隣に自分も住んだり、次の世代に「大丈夫だよ、安心だよ」って渡せられないんです。すごい不安なんです。このダムが。それで、このダムを造るのに、安全対策するのに、14、15箇所くらいの安全対策に、さまたちプラス 100 億円以上の税金等かかるっていうのをちょっとお見受けしたんですけど、今このご時世に、消費税も上がるかも知れない、少子高齢化で次の世代が支えられないとか、言っている時にですね、また、ダム造りました、そのたびにまたどっか崩れました、壊れました、安全対策安全対策でプラスプラスの皆さんの血税を本当にそそいで価値あるダムが出来るといってのがすごく不安と心配でならないですよ。これから先あと 10 年後とか言われているんですけど、そのときにダムが出来てからでは遅いので、もう少し国も県も専門家の河川工学とか地質学とか、土木業界の専門の先生がいらっしやと思いますので、「造れや、造れや」といった感じで、造った方がコストがかからないって言いますが、コストがかからないからって危険の隣り合わせなダムに

私たちは安心して暮らせないので国とか県は、国民の財産を守るのであれば、いくらコストが安いからダムを造るじゃなくて、それだったら、毎年予算が、わかんないですけど何百億とか頂けるみたいなので、それを活かしてダムじゃなくて、ダムによらない他の治水対策。実際もうアメリカなんかはダムもう撤去、造らないと言っていますし、各国でもダムの決壊とかいろんなことを聞いてますし、また奈良県の方のダムでも、強行的にどんどん造っちゃったけどダムが決壊してダムの役目を果たしていないとあって。そういったことをやっぱりこの時代は、自分が調べようと思えば分かるんですが、実際そこまでやっている町民がどれくらいいるかっていうとちょっとそこは疑問になってしまうんですけど、そういうことが私たち世代、私は今40代ですけど、これから子供を産んで育てる20、30、40代の人たちは、そういうことが今情報が全部入りますから、そういったことを踏まえた上で、それでも国とか県の方が、そんな危険と隣り合わせなダムを「造れや造れた」というのは、私にしてみると理解に苦しみます。こんな危ないダムのところに実際住んで、長野原の町民とかみんなが幸せになれるのかと思うと、やはりもっと地場産業とか、先程の方も言っていましたけど、そういったところに、税金や組まれてくる予算を投資して、もっともっと長野原の町民が幸せになるような対策を作って、示して欲しいんですけど。結局国や県の方も、そういった優秀な専門家の意見も聞かずに、聞いているか分かりませんが、もっと真摯に聞いて、それを長野原町民の人の前で意見を聞いて貰うとか、公開討論して欲しいんですけど、それをしらないで「ダムを作れば」みたいな感じの風潮が流れていますので、それは本当に心配です。私は、あと長野原町の観光面からという観点から言いますと、私は隣の町で小さいお店をやっているんで、草津や万座方面に大分お客様が登ってきます。そうするとやはり、そのお客様っていうのは何を求めて来るかって言うと、東京埼玉近郊から来るお客様っていうのは、やはり癒しとか温泉を求めて来るんですよ。それでやっぱり、草津温泉も大分宿泊のお客様が減っていますが、やっぱり湯畑とか、温泉とか足湯に入って、ゆっくり時間を過ごす、時を過ごす。もし、私も商売していると肌で感じるんですけど、ダムを造った場合にこのダムで観光事業が成功するか、それは国とか県がきちんとその案を示してあるのか、その辺もまだちょっと疑問です。やっぱり私も、東京、埼玉、前橋、高崎とか、友達たくさんいるんですけど、「八ッ場ダムどうなった？」っていうから「こないだ前原さん来て反対って言ったけど、また造るとか造らないとか言ってるよ」とかっていう話になると、「あの吾妻溪谷と川原湯の温泉沈んじゃうのもったいないよね」っていうんです。実際にコンビニも無いひなびた温泉っていうのが、本当に今そういう温泉を求めてやってくるお客様とか観光客が実際にいるんですね。で結局、話は飛びますけど、草津は昔すごいスキーがはやったんですけど今ではスキーの板を積んでくるお客さんはまずいません。20代、30代若い人でも、まずいないんですよスキーの板を積んで観光に来る人は、何しに来るのかっていうと温泉に入りに来るんです。温泉につかりに。それでやっぱりゆっくりしたいっていうお客さんが、やっぱりもう若い世代が温泉につかってゆっくりして帰りたいっていうそういうお客様がいるのに、私の実家は打越の代替地にありますが、あの目の前にダムが出来て水たまりみたいなあんなでっかいのが出来ちゃって、本当に大丈夫かなと思うんですけど。結局自然を壊してまで、地形を壊してまでダムを造って、失敗しちゃうと川原湯は単なる草津や万座、軽井沢の通過点にしかなりません。わざわざ川原湯に、何百億ってかけた国家プロジェクトのダムを一回は見に来るかもしれませんけど、感動したからってまた川原湯温泉に入りに行こうかっていうお客様はどれくらいいるのかなってのも疑問があります。そういう意味で、本当にそこまでのダム建設に意味があるのかっていうことと、後ですね、うちの実家も今打越の代替地にいますけれど、結局小さいときから、「昔はねダムができれば国からね、1件ずつ50坪の土地がただで貰えるんだよって言われてたんだよ」なんてそういう話とか、結局うちも良いように良いように言われて、結局代替地に住んでいますけ

れど、やっぱり今代替地にいる人たちはふるさとを捨てられないんですよ。やっぱりふるさとが良い川原湯が良いからって言って、高い坪単価のものすごく高い土地を買わされ、借金をして家を建てて、そしたら案の定「銀行が金かしてくれねえ」って、親が言ってました。そこまで国とか県の方は、現状を知っているのかなって。「どうするのお父さん、うち借金できないの」って「どうする銀行なんか足下見て金かしてくんねえ」って、そうにやっぱり言われたときに、最終的にやっぱり一番弱い人が、本当に痛い目に遭うというが、地面は借り物で上は自分たちで、両親が建てたんですけど。ごめんなさいそういうことです。すみません、そういうことが現状なので、ごめんなさいちょっと長くなってしまうんですけど、やるとか、ダム賛成反対とかじゃなくてもう一度原点に帰って、ダムの必要性を検討して頂きたいと思います。ありがとうございました。

以上